

「深い学びの技法」バージョン 2.1 公表のお知らせ

拙著『アクティブ・ラーニング「深い学び」実践の手引き』教育開発研究所（2017年）を刊行してから1年が経ち、本書で提案いたしました「深い学びの技法」が、「具体的でわかりやすく、授業づくりや授業評価にあたってすぐに使える」ということで好評を得ております。感謝申し上げます。

その間に多くの学校で、この「深い学びの技法」を活用していただき、いろいろな教科や学年での「深い学び」の授業研究を積み重ねて参りました。

そうした学校での実践的な研究の結果、新しいタイプの技法を発見することができましたので、これまでの15個の技法を20個に増やし、新しいカテゴリーで再整理しまして、「深い学びの技法 20」として新しく提案させていただくことになりました。

「深い学び」を生み出す授業改善や研究授業で、ご活用いただければ幸いです。

なお、ここに含めました20個の深い学びの技法は、次に挙げるような多様な理論的かつ実践的な教育改革の動向をしっかりとふまえ、国内外の最先端の授業研究の成果を組み込んで作成したものですので、新学習指導要領にも十分に合致しており、安心してご活用いただけるものになっております。

各学校での「深い学び」の実践研究が広がり、21世紀社会で必要となる子どもたちの多様な資質・能力が伸びていきますことを、ご期待申し上げます。

- ① 海外の Deep Learning および Deeper Learning の理論と実践の動向
 - ② OECD の PISA 調査における新しい資質・能力（リテラシー）の考え方
 - ③ 全国学力・学習状況調査の問題 B が前提とする PISA 型読解力
 - ④ 現行の学習指導要領が求める、「活用を図る学習活動」で必要となる学び方
 - ⑤ 大村はま先生の「学習のてびき」に見られる多様な学び方
 - ⑥ 中央教育審議会答申で提案された「メタ認知」の考え方、他
- ※ これらの技法は、各小単元で3つから4つ程度を配慮していただければ十分です

2018年7月

早稲田大学教職大学院・教授

田中博之